



法人よつば たより

No.16

発行：社会福祉法人よつば ☎04-7199-7931
 発行日：2022年 5月 1日
 ホームページ：<http://www.kashiwa-yotsuba.jp>

☆ご挨拶

三月に実施した日本福祉大学教授である綿祐二先生を迎えての、「障害者家族を元気にする講演会」には、九七名の方の参加がありました。親あるうちに備えるべき具体的な準備を確認する集会でした。

令和四年度の計画案と予算案を審議する「定期理事会」が終了しました。幾つかの新規計画がありますが、法人よつばの設立二十周年記念のイベントを十一月二日に予定しています。利用者の方たちへのアンケート調査の結果が出ました。各事業の利用者や理事・評議員の方たちにも公表しました。四月には、職員の方たちへのアンケートを実施しましたので、五月中には集計が出来る予定で、全事業と理事・評議員に公表する予定です。

☆7月に生活介護事業「まーる

沼南」を開設します!!



柏市大津ヶ丘三丁目、二百十七㎡(六十五坪)の平屋建てを用いて、就労継続支援B型「青い鳥」との多機能型支援事業所として、定員十名からスタートします。送迎も行います。心身のストレッチ・余

暇活動・普段の生活の訓練・就労練習などのメニューを組み合わせます。五月から見学と説明をおこないます。パンフレットも準備できています。法人事務局まで問い合わせください。あと三か月後はオープンです。

☆障害者の体験や思い

・流山市在住 A Aさん



私は今年で五十歳になります。心の病に気づいたのは、高校生のときです。今考えると、そのころに幻聴や被害妄想があつて、友達関係がうまく作れず、孤独でした。何とか大学にも入れ、卒業もしましたが、就労には至りませんでした。自宅は商売をしていましたので、その手伝いをするので過ごしていました。大学生のころには精神科に通院し、服薬をしていましたが、時々苛立つてしまい、家族に暴言と暴力をふるってしまいました。そんな時は一時的に入院をしましたが、一進一退を繰り返していました。

そんな時に流山市に引っ越すことになり、グループホームに入れることになりました。しかし、本来人間関係が苦手な私は、同居者

にも暴言を吐いてしまい、アパートで暮らすのが落ち着けると考えるようになりました。当初アパート生活は不安でしたが、ヘルパーの方が来てくださり、また訪問看護の方も毎週来てくださった事で、少しずつ慣れてきました。あつという間に、流山市に来て二十年近くになっていきます。今でも生理の前後は気分的に不安定になりますが、おおよそ落ち着いて過ごせています。

なぜ自分が精神病になったのか、考えても理由が分かりません。ただ小さい頃から、人にとっても気を使つて生きていたと思います。もっと自分のことを自己主張できればよかつたのかもしれない。三十年ほどの間に、病名も三回変わりました。病院を転院するごとに病名が変わるような気がします。今では病名は気にしていません。もう少し年を取れば、もっと落ち着いて過ごせるでしょうか。

☆家族の思いと願い

・柏市在住 A Bさん

(話が少し長くなりますので、何回かに分けてお話しします)
 息子は柏市に引っ越して以来約



一年、部屋に引きこもってしまいました。ある日部屋から出ると、「お母さん、僕はおかしいので、病院に行きたい」と言ってきました。私自身もそのころ、精神科に通院していましたが、同じ病院に連れていきました。平成十年五月ごろのことです。最初の一か月は、検査ばかりでした。あるとき、「家族の人も一緒に来るように」と言われて、私と息子が受診し、家での様子やこれまでのことを聞かれました。その時から服薬が始まりました。六月に入って、先生から話があり、他の病院に入院するよう勧められました。入院先が決まった次の日の朝、息子は五階のベランダから飛び降りました。忘れもしない七月二日の朝のことです。命は助かりましたが、七か月の間の入院とリハビリが待っていました。それ以来、私は息子の様子を日記に書くことにしました。今、その時のことを二十数年ぶりに振り返っています。

息子が飛び降りたとき、救急車で慈恵大病院に運ばれました。ICUの部屋で見た息子は、左手・右足は固定されていました。動くこともできず、ただ、天井を見上げて、寝たきりの状態でした。内出血がひどく、命を維持するのがやっとの血液量でした。すぐに輸血が始まり、その後は高カロリー点滴が施されました。六日目にやっと、ゼリー・プリン・おもゆ・スープなどが食べられるようになりました。しかし薬はまだ飲むことが出来ず、精神状態は不安定でした。話す言葉は支離滅裂だったりして、まともとは言えない状態でした。入院後三週間を過ぎて、薬の許可が出て、次第に効いてくると、今度は全く話さなくなりました。その後「早く骨折の手術をしたい」と言い出し、八月四日に手術と決まりました。手術は、精神科病棟のある病院で行うとの条件が出され、転院先は慈恵大の本院に決まりました。手術をするため、一時的に息子は整形外科に入院しました。私も十日間付き添いました。病院から「私も一緒に泊まっていたほしい」と頼まれたからです。手術後に、先生からレントゲン写真を見せられ、バラバラの骨とそれが寄せ集められた写真を見て、あまりの痛ましさとショックで立っているのがやっとでした。先生は、「三週間の安静が大切です。

そうしないと手術が無駄になりません」と息子と私に言われました。私たちは、その言葉を懸命に守りました。(続く)

☆発達障害者の「当事者会」継続中!



発達障害者の当事者会を始めて、六か月を経過しました。まだ参加者は少ないのですが、気持ちを分かち合うことを希望している方の参加を願っています。皆さんの周りに、発達障害の方がおられましたら、左記のことを情報提供してください。

- ・いつ 毎月第四日曜の午後一時から
- ・どこで 流山市の初石公民館にて
- ・問い合わせ 勝本まで 090-3696-1589

☆法人の事業案内

- ・就労継続B型 「よつば工房」(柏がんセンター近く)と「青い鳥」(大津ヶ丘)は、それぞれ定員四十人です。仕事の内容が違いますので、見学をお勧めします。
- ・地域活動支援センターⅢ型「クロ

ーバ柏」、柏警察署の近くにあり、毎日のプログラム活動、就労準備など。

☆支援者の目指す目標

へバイステックの七原則

1. 人はそれぞれ違い、同じ問題は存在しない(個別化の原則)
2. 利用者の方の喜怒哀楽の表現を期待する(意図的な感情表現)
3. 支援者は利用者の感情に飲み込まれないようにする(統制された情緒の関与)
4. 頭から否定せず、利用者の思い感情を理解する(受容の原則)
5. 利用者の行動や思いに対して、善悪を決めつけない(非審判的態度)
6. あくまでも自らの行動を決定するのは利用者自身(自己決定)
7. 利用者の個人情報やプライバシーを大切に(秘密保持の原則)

※よつば会家族会(柏部会)

日時:五月二十一日十三時
会場:パレット柏 コミュニ

※よつば家族会(流山部会)

会場:流山学習センターA101
日時:五月二十七日 十時

